

写真は語る 南アメリカ・ブラジル・アマゾンの魅力

前筑波大学教授
松本 栄次 著・撮影

オールカラー
B5判・192ページ
写真485点・図表152点
定価：本体3,800円(税別)
ISBN978-4-8176-0364-7 C1025

めまぐるしく変化し、経済発展を遂げる南アメリカ。40年の実地調査を経て、自然環境と産業、人々の生活の変遷に、カラー写真・図表を駆使し、詳細な解説でせまら。

- 【3部構成】
I 南アメリカ その自然と産業
II ブラジル 動き出した南米の大国
III アマゾン 開発と保全の焦点

二宮書店

発刊にあたって

本書は、筆者がこれまでブラジルを中心にその周辺諸国で撮り貯めた3万点にわたる写真から選りすぐったアルバムである。アルバムの整理に当たっては、「南アメリカの自然と生活」としてストーリーを考え、それに沿って写真の選定と配列を行った。各々の写真について、画像から直接読み取れる事象やその背後に潜む事情を説明することに努めた。取り上げた地域は、南アメリカ全体、その中のブラジル、またその中のアマゾン地方(アマゾンニア)というスケールを異にした3地域である。

取り上げた事項は地域情報全般であるが、自然地理的要素に関することの比重がやや大きい。自然地理などという「専門用語ばかり多くてとっつきにくい」と敬遠されがちであるが、あえてそうしたのは、この地域の人々の生活や産業に自然が密接に結びついていること、

推薦のこぼ

40年にわたる実地踏破、見事なカラー写真にて結実！
筑波大学名誉教授 山本 正三

南アメリカとブラジルに関心のある方々に、ぜひ読んでいただきたい。著者は、40年間の長期にわたって実地踏破し観察した南アメリカ、特にブラジルの諸地域の実態を見事なカラー写真に記録した。本書では、自然と人々の生きざまや、営み、産業事情、環境、開発状況などの地域の多様なすがたを、どのような意味をもつかの解説とともに景観写真に映し出している。南アメリカとブラジル、アマゾンの今日の様子と実態が、見る人に強烈な感興をよぶに違いない。特筆に値する好著である。

南米の自然と暮らし、今、鮮やかに甦る！
獨協大学学長 犬井 正

1970年代初頭にブラジルに足を踏み入れて以来、40年間にわたって、松本栄次氏が現地を歩きながら撮りためてきた3万点の写真をベースにして、本書は刊行された。氏は、車とカメラをこよなく愛して、何ん不自由ないポルトガル語を駆使しながら、「あるく・みる・きく」を実践し、この『地理写真書』を作り上げた。GPSデータが添えられている本書の写真を目にした人は、きっと、現地に外向いて自身の目にも焼き付けたいと思うに違いない。

この地域の自然についてまとまった形で紹介しているものが少ないこと、また、このような写真主体の形式なら、自然地理の面白さがいささかでもわかってもらえるのではないかという期待があったからである。そのために、必要に応じて模式図や地図を挿入して、理解の助けとなるようにした。

南アメリカにはイグアスの滝やマチュピチュの遺跡などの観光地もあるが、それに劣らず魅力的なアンデス6000m級の山々、世界最大のパンタナル湿原、ブラジル高原に広がるサバナ大平原などの多彩で雄大な自然がある。さらに歴史が刻みこまれた多くの世界文化遺産もちりばめられている。本書によって、実際に行ってみたくてという気持ちを抱かれたなら嬉しいかぎりである。



松本 栄次

もくじ

- ### I 南アメリカ その自然と産業
- 1 自然と産業
 - 2 地殻変動の激しいアンデス地域
 - 3 古い岩石からなる安定陸塊
 - 4 南アメリカにみる熱帯
 - 5 広大な湿潤熱帯
 - 6 パラエティに富む乾燥帯
 - 7 穏やかな気候の温帯
 - 8 高山地域、高度で変わる自然環境
- ### II ブラジル 動き出した南米の大国
- 1 ブラジルのイメージ
 - 2 ダイジェスト版ブラジル地理
 - 3 バイオエタノール先進国ブラジル
 - 4 プームとバーストの産業史
 - 5 現在のもう一つのブーム 大豆栽培
 - 6 水資源でも大国
 - 7 ブラジルの个性的な都市
- ### III アマゾン 開発と保全の焦点
- 1 広大な緑のアマゾンニア
 - 2 多彩な水の世界
 - 3 天然ゴムブームの遺跡をたずねて
 - 4 豊かな生態空間、ヴァルゼア地域
 - 5 貧栄養のテラフィルメ地域
 - 6 アマゾン森林の破壊

内容見本 ▶ p.90~99

II-3 バイオエタノール先進国ブラジル

石油危機が事の始まり / サトウキビ栽培地・生産量の飛躍的増加 / エタノール車の歴史 / エタノールの生産 / 世界一のエタノール輸出国 / 国家アルコール計画の功罪

!!!
ブラジルが世界一のエタノール輸出国となるまでの歴史の変遷、最新事情、今後の課題に迫る。

▼エタノール工場
▼サトウキビ畑での火入れ・刈り取り・工場への運搬

▲エタノール車の普及状況



■サトウキビの生産
319 サトウキビ刈り取り前の火入れ 機械を使う場合(N=200)の写真を参照。サトウキビの刈り取りに先立って火入れが行われる。燃料は草にしかないので、不要な草を取り除くためである。稲妻でカラカラに乾いた葉はよく燃え広がるが、葉は燃え残る。サンパウロ州のように入人口が密な地域では、サトウキビの火入れによる被害が深刻化している。2002年1月撮影。
320 火入れ後のサトウキビの刈り取り 火入れが済んだ畑でサトウキビの刈り取りを行う農業労働者(サラリーマン化した農匠)で、ブラジルではこのような人々を「冷たい仕事」を意味するボイアリアと呼ぶ。収穫時には刈り取り機を持って、都市からアパゼンガへ運ばれてくる土地持ちの農匠である。2002年1月撮影。
321 収穫したサトウキビを工場へ 南アフリカ州の海運埠頭は、船が埠頭に到着する前からトラックで運ばれてブラジルを代表するサトウキビ産地である。一度サトウキビが燃え残った河原(リバーフロント)の写真を参照。3連トローラーのサトウキビ運搬車が線路を上げて製糖工場へ向く。広くは2連以上のトローラートラックをトレミニオンというが、サトウキビ運搬用の3連トローラートラックをさすことが多く、4連、5連のトレミニオンも見られるが、それらは農用内用であり、全部30mをこえるような車両が公道を走ることは許されない。2001年3月撮影。



■エタノール専業工場(レフェリアー)
322 サトウキビ加工工場 洗浄されたサトウキビを破砕し糖液を取り出すラインで、製糖工場にもエタノール工場にも見られるサトウキビ加工の糖液工程である。2002年1月撮影。
323 サトウキビの洗浄と洗浄 洗ったサトウキビを専用トローラーで、製糖工場に運ぶ。サトウキビの洗浄は、製糖工場に運ばれたサトウキビを洗浄する。製糖工場には、サトウキビの洗浄水が大量に出る。2002年1月撮影。
324 エタノールの製造タンク 新しく造られた製糖工場が稼働してエタノールができてくる。この過程で製糖工場に生ずるサトウキビ加工の糖液(ワニコート)が生ずる。2002年1月撮影。
325 エタノール専用タンクと貯蔵タンク 互換の無い装置で、エタノールの貯蔵。そのほか製糖タンクで、製糖工場にはなくエタノール工場にのみある。手前の緑と赤の装置はサンプリング用のドリルで、トローラーに積まれたサトウキビに刺さるドリルを挿入してサンプルを取り、品質を調べる。2002年1月撮影。

312 車に搭載したエタノール 車に搭載したエタノール車は、1979年には、460台あまりのエタノール車が生産された。全自動車の4%程度まで増加した。アルコールで製造されていると大衆的な公用車がレフェリアー市で生産された。1979年12月撮影。
313 エタノールも走るガソリンスタンド 1980年1月、すでに北東部地方の地方都市カンピナランサのガソリンスタンドでも、エタノールの併給を受けられるようになった。左

のAlcool Hidratado(含水アルコール)はここがエタノール(アルコール)を、右がレフェリアー市で生産された。製造コストを下げるために、自動車燃料用のアルコールには通常時に数%の水の添加が行われているので含水である。そのため、リッターあたり走行距離は短くなるが、価格も安く設定されている。このスタンドでは、アルコールが1.14リットル、レフェリアー市ガソリンが2.25リットルであった。1980年1月撮影。

▲エタノール車の普及状況
第1次石油危機直後から国家アルコール計画を開始し、サトウキビから自動車燃料としてエタノールを製造し、エタノール車普及に努めてきたバイオエタノール先進国ブラジル。2003年にガソリンでもエタノールでも動くフレックス車を開発し、登録自動車の95%を占めている。現地で得た情報に加え、インターネットユーザー数では世界の十指に入るブラジルの豊富なデジタル情報を取り込んで、地域のすがたをリアルに伝える。

◀エタノール専業工場でのサトウキビ加工とエタノール貯蔵

内容見本
ブラジルのバイオエタノールの歴史の変遷と最新動向

写真は語る 南アメリカ・ブラジル・アマゾンの魅力

多彩なカラー写真、充実の資料

1971年より40年の実地調査での3万点におよぶ写真から選りすぐった色鮮やかな地理写真、さらに最新統計を駆使した資料で南米大陸の現況を詳述した。

写真	485点
図版	98点
表	9点
グラフ	45点
合計	637点

掲載した写真に入れた撮影位置情報(緯度・経度・撮影方向)をGoogleEarthやGeoSetterなどのソフトにGPS情報として入力すると、撮影地点を直つて見ることができ、全写真のGPSデータ付きサムネイル画像ファイルは二宮書店のホームページからダウンロードできます。



二宮書店 同時発売 単行本

小農複合経営の地域的展開

B5判上製本・400頁 定価：本体9500円(税別)
山本 正三・田林 明・菊地 俊夫 編著

フィールドワークに基づき、日本の農業を小農複合経営という視点から分析した論文集。日本の小規模農業がいかにして成立し、変化し、持続してきたのかを明らかにする。編著者3人による座談会「小農複合経営の現代的意義」を巻末に収録。

- I 総論
 - II 遠隔地・高冷地
 1. 阿武隈高原南部における小農複合経営の展開
 2. 九重山北麓飯田高原における土地利用と集落の発展
 3. 長野県菅平高原における集落の発展の一類型
 - III 首都圏 (伝統農業)
 4. 茨城県出島村下大津における自立型農業経営の地域的性格
 5. 茨城県波崎町松下地区の土地利用と生活形態
 6. 茨城県岩井市における首都圏外縁農村の変貌
 - IV 首都圏 (園芸・施設農業)
 7. 茨城県筑西市協和地域における小玉スイカ産地の維持要因
 8. 九十九里平野における養液栽培の導入による施設園芸の維持形態
 - V 地方都市近郊
 9. 常陸太田市における郊外農村の存立基盤
 10. 水戸市における近郊農村の地域性 ―中河内地区を事例として―
 - VI 首都近郊
 11. 東京大都市圏における近郊酪農の複合経営化とその成立基盤の持続性
 12. 東京都小平市におけるルーラルリティの再編と近郊農業の持続性
 13. 東京都練馬区西大泉地区における都市農業の多機能性システム
- 座談会「小農複合経営の現代的意義」

ご注文はお近くの書店へ、または小社へご連絡ください。
〒153-0061 東京都目黒区中目黒5-26-10
Tel. 03-3711-8636 Fax. 03-3711-8639
http://www.ninomiya-shoten.co.jp

二宮書店

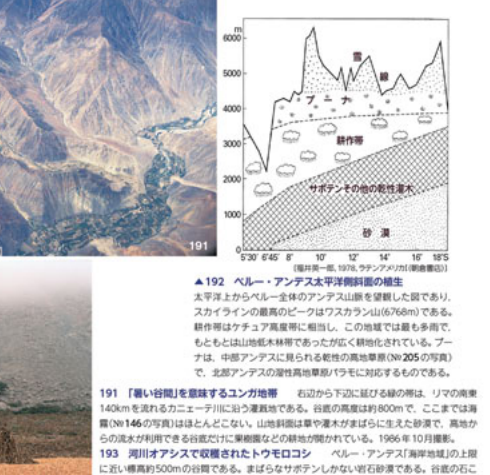
I 南アメリカ その自然と産業

!!!
6000m級の山々や砂漠、大湿原、大平原などの多彩で雄大な自然をもつ南アメリカ。自然の特徴と地下資源開発や農牧林業などの営みを解説する。

I 内容構成

- 1 自然と産業
- 2 地殻変動の激しいアンデス地域
- 3 古い岩石からなる安定陸塊
- 4 南アメリカにみる熱帯
- 5 広大な湿潤熱帯
- 6 バラエティーに富む乾燥帯
- 7 穏やかな気候の温帯
- 8 高山地域、高度で変わる自然環境

602 北米と南米のアンデス山脈 南米のアンデス山脈は、南米大陸の西部に伸びる山脈で、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。アンデス山脈は、南米大陸の西部に伸びる山脈で、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。



191 暑い気候の中南部アンデス アンデス山脈は、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。アンデス山脈は、南米大陸の西部に伸びる山脈で、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。



192 ペルーアンデス山脈の構造 ペルーアンデス山脈は、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。アンデス山脈は、南米大陸の西部に伸びる山脈で、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。



193 阿塔カマ砂漠に覆われたトモコロン ペルーアンデス山脈の東側に、阿塔カマ砂漠が広がっている。この砂漠は、南緯20度から南緯30度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる砂漠が連続している。その中には、南緯20度のアタカマ砂漠、南緯30度のアタカマ砂漠などがある。アタカマ砂漠は、南米大陸の西部に伸びる砂漠で、南緯20度から南緯30度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる砂漠が連続している。その中には、南緯20度のアタカマ砂漠、南緯30度のアタカマ砂漠などがある。



194 サンタカタリャ山脈の地質 ペルーアンデス山脈の東側に、アマゾン熱帯雨林が広がっている。この熱帯雨林は、南緯5度から南緯15度、西経60度から西経70度にかけて、多岐にわたる熱帯雨林が連続している。その中には、南緯5度のアマゾン熱帯雨林、南緯10度のアマゾン熱帯雨林などがある。アマゾン熱帯雨林は、南米大陸の西部に伸びる熱帯雨林で、南緯5度から南緯15度、西経60度から西経70度にかけて、多岐にわたる熱帯雨林が連続している。その中には、南緯5度のアマゾン熱帯雨林、南緯10度のアマゾン熱帯雨林などがある。



195 新しく築かれたチャチャポヤ山脈 チャチャポヤ山脈は、南緯10度から南緯20度、西経70度から西経80度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のチャチャポヤ山脈、南緯15度のチャチャポヤ山脈などがある。チャチャポヤ山脈は、南米大陸の西部に伸びる山脈で、南緯10度から南緯20度、西経70度から西経80度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のチャチャポヤ山脈、南緯15度のチャチャポヤ山脈などがある。



196 ペルーアンデス山脈の地形と気候の分布 ペルーアンデス山脈は、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。アンデス山脈は、南米大陸の西部に伸びる山脈で、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。

I-8 高山地域、高度で変わる自然環境 乾いた気候の中南部アンデス p.60, 61

霧の砂漠の海岸から、氷河に覆われた高山まで、高度とともに変わるペルーアンデスの自然。適度な雨と常春の気候、なだらかな地形に恵まれた熱帯高山の3000mに多く住む住民の生活がみとれる。

I-5 広大な湿潤熱帯 湿潤熱帯の地形 p.36, 37

熱帯の自然は、日本のような温帯とは別世界である。土壌や動植物ばかりでなく、地形もまた異なっている。ポルンハルト(ドーム状の岩山)・ハーフオレンジ(厚い風化土層でできた円頂丘)・花崗岩にできたカルスト地形など、地形のユニークさが写真を通して実感できる。

II ブラジル 動き出した南米の大国

!!!
2014年サッカーワールドカップ・2016年オリンピック開催
コーヒーとサッカーだけの国ではないに、あまりにも知られていないブラジル。基本的な地域情報と最新テーマから、注目度上昇中のブラジルに迫る。

II 内容構成

- 1 ブラジルのイメージ
- 2 ダイジェスト版 ブラジル地理
- 3 バイオエタノール 先進国ブラジル
- 4 ブームとバーストの産業史
- 5 現在のもう一つのブーム 大豆栽培
- 6 水資源でも大国
- 7 ブラジルの個性的な都市

348 世界遺産都市、オウロブレートの街並み ブラジルの歴史は、1500年から始まる。この歴史は、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる歴史が連続している。その中には、南緯10度のオウロブレートの街並み、南緯15度のオウロブレートの街並みなどがある。オウロブレートの街並みは、南米大陸の西部に伸びる街並みで、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる街並みが連続している。その中には、南緯10度のオウロブレートの街並み、南緯15度のオウロブレートの街並みなどがある。



349 サマリアンナ山脈の地質 ブラジルの歴史は、1500年から始まる。この歴史は、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる歴史が連続している。その中には、南緯10度のサマリアンナ山脈の地質、南緯15度のサマリアンナ山脈の地質などがある。サマリアンナ山脈の地質は、南米大陸の西部に伸びる地質で、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる地質が連続している。その中には、南緯10度のサマリアンナ山脈の地質、南緯15度のサマリアンナ山脈の地質などがある。



350 ミナスジェライス州のオウロブレートの街並み ミナスジェライス州は、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる州が連続している。その中には、南緯10度のオウロブレートの街並み、南緯15度のオウロブレートの街並みなどがある。オウロブレートの街並みは、南米大陸の西部に伸びる街並みで、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる街並みが連続している。その中には、南緯10度のオウロブレートの街並み、南緯15度のオウロブレートの街並みなどがある。



351 ミナスジェライス州の地質 ミナスジェライス州は、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる州が連続している。その中には、南緯10度の地質、南緯15度の地質などがある。地質は、南米大陸の西部に伸びる地質で、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる地質が連続している。その中には、南緯10度の地質、南緯15度の地質などがある。



352 古い街並みが残る街並み マトグロソ州は、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる州が連続している。その中には、南緯10度の古い街並み、南緯15度の古い街並みなどがある。古い街並みは、南米大陸の西部に伸びる街並みで、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる街並みが連続している。その中には、南緯10度の古い街並み、南緯15度の古い街並みなどがある。



353 古い街並みが残る街並み マトグロソ州は、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる州が連続している。その中には、南緯10度の古い街並み、南緯15度の古い街並みなどがある。古い街並みは、南米大陸の西部に伸びる街並みで、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる街並みが連続している。その中には、南緯10度の古い街並み、南緯15度の古い街並みなどがある。

III アマゾン 開発と保全の焦点

!!!
世界最大の熱帯林が広がる緑のアマゾン。濁った川、黒い川、澄んだ川—河水が示す流域の生態系、さらに、森林消失の現状と保全を考える。

III 内容構成

- 1 広大な緑のアマゾン
- 2 多彩な水の世界
- 3 天然ゴムブームの遺跡をたずねて
- 4 豊かな生態空間、ヴァルゼア地域
- 5 貧栄養のテラフィルメ地域
- 6 アマゾン森林の破壊

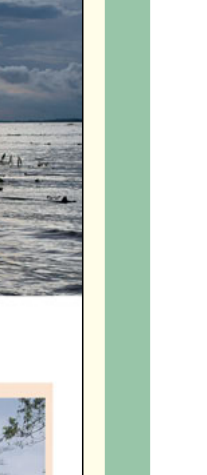
602 北米と南米のアンデス山脈 南米のアンデス山脈は、南米大陸の西部に伸びる山脈で、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。アンデス山脈は、南米大陸の西部に伸びる山脈で、南緯10度から南緯55度、西経70度から西経10度にかけて、多岐にわたる山脈が連続している。その中には、南緯10度のアンデス山脈、南緯20度のアンデス山脈、南緯30度のアンデス山脈、南緯40度のアンデス山脈、南緯50度のアンデス山脈などがある。



514 ヴァルゼアの肥沃な土 南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる肥沃な土が連続している。その中には、南緯10度の肥沃な土、南緯15度の肥沃な土などがある。肥沃な土は、南米大陸の西部に伸びる土で、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる土が連続している。その中には、南緯10度の肥沃な土、南緯15度の肥沃な土などがある。



515 低ヴァルゼアの浸水林 木の根が定着して腐敗しているのは、この年の雨季に浸水したためである。この年の雨季は、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる雨季が連続している。その中には、南緯10度の浸水林、南緯15度の浸水林などがある。浸水林は、南米大陸の西部に伸びる浸水林で、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる浸水林が連続している。その中には、南緯10度の浸水林、南緯15度の浸水林などがある。



516 農畜生産の中心地 南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる農畜生産の中心地が連続している。その中には、南緯10度の農畜生産の中心地、南緯15度の農畜生産の中心地などがある。農畜生産の中心地は、南米大陸の西部に伸びる農畜生産の中心地で、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる農畜生産の中心地が連続している。その中には、南緯10度の農畜生産の中心地、南緯15度の農畜生産の中心地などがある。

II-4 ブームとバーストの産業史 黄金サイクル p.104, 105

ブラジルの産業史は、ブラジルポク、砂糖、黄金、コーヒー、天然ゴムというように、一つの産業が爆発的に発展して好景気(ブーム)を呼び、それが急速に衰退(バースト)することのくり返しであった。産業史を通じて、大国ブラジルの成り立ちが見えてくる。

II-5 現在のもう一つのブーム 大豆栽培 熱帯産大豆普及への努力 p.110, 111

ブラジルにおける大豆生産の歴史は、大豆栽培の歴史である。大豆栽培は、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる大豆栽培が連続している。その中には、南緯10度の大豆栽培、南緯15度の大豆栽培などがある。大豆栽培は、南米大陸の西部に伸びる大豆栽培で、南緯10度から南緯20度、西経40度から西経50度にかけて、多岐にわたる大豆栽培が連続している。その中には、南緯10度の大豆栽培、南緯15度の大豆栽培などがある。

